

「サイエンスアゴラ 2016 について」（ご参考）

＜日本学術会議内でのサイエンスアゴラ 2015 に関する手続き＞

○平成 27 年 4 月 9 日 広報・科学力増進分科会（第 3 回）

渡辺美代子委員よりサイエンスアゴラ 2015 について説明。主な点は以下のとおり。

- 日本学術会議には共催していただきたく、会長には開幕セッションにご登壇いただきたい。
- 昨年は日学の分科会等から 3 つ企画を出展しているので、今回もシンポジウム・ワークショップ等の出展をお願いしたい。
- 6 月中に企画案を提出して欲しい。

○平成 27 年 4 ～ 5 月 須藤先生主導で、広報・科学力増進分科会において企画案の検討。

○平成 27 年 7 月 24 日 幹事会（シンポジウムの開催について提案し、了承）

※幹事会へ提案するにあたって、同月に科学者委員会及び科学と社会委員会においてメール審議を行っている。

＜サイエンスアゴラ 2015 公募企画募集要項（抜粋）＞

○開催までのおおまかなスケジュール（予定）

6 月 1 日（月）正午	： 公募締切
6 月中	： 公募審査
6 月末	： 採否（内定）の連絡
7 月下旬～8 月上旬	： 企画提供者説明会（会場下見）
	： 企画提供者マニュアル配布
8 月中旬	： プログラムおよびウェブサイト掲載情報の提出
9 月 1 日（火）～	： サイエンスアゴラ 2015 ウェブサイトオープン
11 月 13～15 日	： サイエンスアゴラ 2015 開催

＜サイエンスアゴラ 2016 へ向けた今後のスケジュール（一部想定案）＞

○JST に確認した内容に基づいたスケジュール（想定）

4 月	： 科学力増進分科会第 1 回開催
4 ～ 5 月	： 企画公募、企画案検討
6 月 1 日（水）正午	： 公募締切
6 月末	： 採否（内定）の連絡？
7 ～ 8 月（想定）	： 幹事会？
11 月 3 日（木・祝）	
～ 6 日（日）	： サイエンスアゴラ 2016

「サイエンスアゴラ 2016」の開催について

1. 主 催： 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、日本学術会議
2. 共 催： 国立研究開発法人産業技術総合研究所、東京都立産業技術研究センター、日本学生支援機構、国際研究交流大学村、東京臨海副都心グループ
3. 後 援： 内閣府、外務省、文部科学省（申請予定）、独立行政法人国立科学博物館、独立行政法人日本学術振興会、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会、一般社団法人日本経済団体連合会、公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会、全国中学校理科教育研究会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本科学技術ジャーナリスト会議、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会、公益社団法人応用物理学会、公益社団法人日本化学会
4. 日 時：平成 28 年 11 月 3 日（木）～11 月 6 日（日）
5. 場 所：日本科学未来館
6. 委員会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：

研究者・専門家と社会の様々なステークホルダー（市民、メディア、産業界、行政・政治）との対話の場、科学技術と社会の関係性についてのあらゆる「科学コミュニケーション」を深化させる場、科学コミュニケーションを通して、本当に社会に役立つ知恵を作り出すことに講演する場を提供することを目的とする。

なお、日本学術会議は、科学と社会委員会科学力増進分科会及び科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会と防災減災・災害復興に関する学術連携委員会が以下のシンポジウムを実施することにより、共催の機関とともにサイエンスアゴラの主催の一員となるが、サイエンスアゴラ全体の主催は国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が担う。
8. 次 第：

（1）高校理科教育のありかたについて

開催日時：平成 28 年 11 月 5 日（土）14：00～15：30

開催場所：日本科学未来館 7 階 会議室 3

定 員：50 名程度

<概 要>

日本学術会議が 2 月に公表した提言、また 6 月 4 日に東京大学で行った公開シンポジウムの内容をもとに、その提言を具体的に実現させるための方法を議論する。

<プログラム>

14：00～14：05 開会挨拶

須藤 靖^{*}（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科

物理学専攻教授）

14：05～14：15 高校現場における理科教育の現状と課題（仮）

宮嶋 敏（埼玉県立熊谷高校教員）

14：15～14：25 大学初年次における科学力と高大接続（仮）

真貝 寿明（大阪工業大学情報科学部情報システム学科教授）

14：25～14：35 現代社会を生き抜くために必要な科学（仮）

青野 由利（毎日新聞論説委員）

14：35～14：45 文科系にとっての科学の意味（仮）

戸田山 和久^{*}（日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院情報科学研究科教授）

14：45～15：25 ディスカッション

15：25～15：30 閉会挨拶

柴田 徳思^{*}（日本学術会議連携会員、日本アイソトープ協会専務理事）

（*印の講演者等は、科学と社会委員会科学力増進分科会委員）

（２）感染症へのチャレンジ

開催日時：平成 28 年 11 月 5 日（土）10：30～12：00

開催場所：日本科学未来館 7 階 未来館ホール

定 員：200～300 名（キーノートセッション）

<概 要>

エボラ出血熱、MERS、ジカ熱などの感染症、さらに、より大きな脅威となりうる薬剤耐性菌（抗生物質の効かない病原菌）に関する最新の知見と取り組みなどを考える。

<プログラム>

10：30～10：35 開会挨拶

澁澤 栄^{*}（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究科教授）

- 10：35～10：50 感染症基礎研究の進展と防御における取り組み（仮）
甲斐 知恵子（日本学術会議第二部会員、東京大学医科学研究所感
 染症国際研究センター教授）
- 10：50～11：05 レギュラトリーサイエンスとしての感染症報道（仮）
 小田 光康（明治大学情報コミュニケーション学部専任准教授、明
 治大学感染症情報分析センターIDIA センター長）
- 11：05～11：20 人畜共通感染症の現状と課題（仮）
 水谷 哲也（東京農工大学大学院農学研究院教授・農学部附属国際
 家畜感染症防疫研究教育センターセンター長）
- 11：20～11：55 ディスカッション
- 11：55～12：00 閉会挨拶
須藤 靖^{*}（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究
 科物理学専攻教授）

（*印の講演者等は、科学と社会委員会科学力増進分科会委員）

（3）災害とレジリエンスー平成 28 年熊本地震災害の教訓ー

開催日時：平成 28 年 11 月 6 日（日）10:30～12:00

開催場所：日本科学未来館 7 階 未来館ホール

定 員：200～300 名（キーノートセッション）

＜概 要＞

災害に対するレジリエンスは予測力、予防力、対応力で構成される。予測力を担う理学、予防力を担う都市計画、工学、対応力を担う社会科学のそれぞれの立場から、熊本地震災害の対応を踏まえ、建物や都市の強靱性を確立し、災害の応急対応・復旧・復興を确实・迅速に進めるために、科学・技術、学術が具体的にどのように役立つか、今後なすべき方向性はどこにあるかを、多くのステークホルダーと議論する。

＜プログラム＞

- 10:30～10:33 開会挨拶
和田 章^{*}（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）
- 10:33～10:47 「予測力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：地震動
平田 直（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）
- 10:47～11:01 「予防力の観点から見た平成 28 年熊本地震：社会基盤
 本田 利器（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）
- 11:01～11:15 「予防力の観点から見た平成 28 年熊本地震：宅地住宅被害
 五十田 博（京都大学生存圏研究所教授）
- 11:15～11:29 「対応力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：応急対策

西村 博則（調整中）（益城町町長）

- 11:29～11:43 「対応力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：生活再建
林 春男^{*}（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学
技術研究所理事長）
- 11:43～11:57 防災減災・災害復興に関わる学術連携の重要性
米田 雅子^{*}（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学先導研究セ
ンター特任教授）
- 11:57～12:00 閉会挨拶
小池 俊雄^{*}（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究
科
教授

（*印の講演者等は、科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する
検討委員会委員または防災減災・災害復興に関する学術連携委員会委員）

これからの高校理科教育のありかた

2016年2月8日に発出した日本学術会議提言「これからの高校理科教育のありかた」を広く社会に発信するとともに、そのより具体的な実現に向けて、高校、大学、マスコミ、など多様な立場からの意見を聞いた上で、より広く議論を行う場を提供する。

企画提供者	日本学術会議科学力増進分科会
開催日	11/5（土）14:00-15:30
会場	A会場（日本科学未来館）7階 会議室3
形式	シンポジウム
URL	http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t224-1.pdf http://scienceportal.jst.go.jp/columns/opinion/20160315_01.html
備考	

登壇者情報：

須藤靖（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授）

宮嶋敏（埼玉県立熊谷高校教員）

真貝寿明（大阪工業大学情報科学部 情報システム学科教授）

青野由利（毎日新聞論説委員）

戸田山和久（日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院情報科学研究科教授）

柴田徳思（日本学術会議連携会員、日本アイソトープ?協会専務理事）

タイムテーブル：

11/5 受付 13:30 開始 14:00 終了 15:30

【当日申し込み枠の定員】100名

【来場者の当日申込み】先着順

1998年、マレーシアの養豚地帯で脳炎患者が急増して105名が死亡した。原因は、それまで未知であった病原体の出現で、ニパウイルスと命名された。政府による豚の大量殺処分で行方が抑制されたが、国家経済の回復には6年を要し、その原因究明や防御法開発のための科学者の

パネル討論では、感染症予防の海外協力に関わる実務者なども交えて、人は感染症といかにつきあっていくのか、共に考えます。

企画提供者	日本学術会議科学力増進分科会
開催日	11/5（土）10:30-12:00
会場	A会場（日本科学未来館）7階 未来館ホール
形式	シンポジウム
URL	http://web.tuat.ac.jp/~sakaes/
備考	同時通訳あり

受付 10:00 開始 10:30 終了 12:00

開催報告



詳細はこちら

登壇者の紹介

澁澤 栄（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院 農学研究院教授）



甲斐 知恵子（東京大学医科学研究所感染症国際研究センター教授）

話題「エマージング感染症との闘いー基礎研究と防御への取り組み」

研究室

<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/jikkendoubutsu/top2.html>



小田 光康（明治大学情報コミュニケーション学部専任准教授，明治大学感染症情報分析センター長、ジャーナリスト）

話題「新しい公衆衛生のかたちータイ・チェンマイの狂犬病予防」

研究室 <http://odazemi.info/> ゼミ活動

<http://aroundtherings.jp/>



水谷 哲也（東京農工大学大学院農学研究院教授，農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センター長）

話題「未来を予測する感染症研究ー人獣共通感染症への挑戦」

研究室 <http://tuat-animal-infection.pnsnet.co.jp/>

須藤 靖（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授）

開催報告

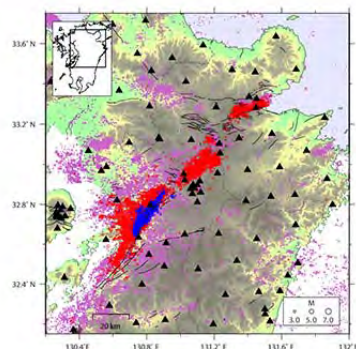
国際規模の人口移動や気候変動により、国際規模で流行する感染症が身近な疾病になりました。動物から人へ感染する疾病を特に人獣共通感染症といいます。鳥インフルエンザ、エボラ出血熱、ジカ熱、SARS、などをご存じかとおもいます。感染症の発生原因や克服には、基礎医学や公衆衛生あるいは社会構造からの多様なアプローチがあります。本セッションでは、三つの話題とパネル討論を通して感染症に関する最新の知見と取り組みを紹介します。一つは、マレーシア養豚地帯で発生したニパウイルスの被害と防御法開発のための科学者の取り組みです。二つ目は、タイ・チェンマイにおける児童も含む住民を巻き込んだ狂犬病予防プロジェクトの取り組みです。三つ目は、人獣感染症発生の予測可能性の取り組みです。人は感染症といかにつきあっていくのか、共に考えました。討論では、「ワクチン候補が開発されたのに、なぜ普及しないのか？」の質問があり、投資する企業や団体が現れないからであると回答、経済的あるいは社会的アプローチの必要性も強調された。

◀ プログラム一覧ページに戻る

災害とレジリエンスー平成28年熊本地震災害の教訓ー

災害に対するレジリエンスは
予測力、予防力、対応力で構成される。予測力を担う理学、予防力を担う都市計画、工学、対応力を担う社会科学のそれぞれの立場から、熊本地震災害の対応を踏まえ、建物や都市の強靱性を確立し、災害の応急対応・復旧・復興を確実・迅速に進めるため

に、科学・技術、学術が具体的にどのように役立つか、今後なすべき方向性はどこにあるかを、多くのステークホルダーと議論する。



企画提供者	日本学術会議 防災減災関連の2つの課題別委員会
開催日	11/6（日）10:30-12:00
会場	A会場（日本科学未来館）7階
形式	シンポジウム
URL	
備考	

登壇者情報：

10:30～10:33 開会挨拶

和田 章＊（日本学術会議連携会員、防災学術連携体代表幹事）

10:33～10:47 「予測力」の観点から見た平成28年熊本地震：地震動

平田 直（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）

10:47～11:01 「予防力」の観点から見た平成28年熊本地震：社会基盤

本田利器（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

11:01～11:15 「予防力」の観点から見た平成28年熊本地震：宅地住宅被害

五十田博（京都大学生存圏研究所教授）

11:15～11:29 「対応力」の観点から見た平成28年熊本地震：応急対策
熊本地震の被災市町村の職員（調整中）

11:29～11:43 「対応力」の観点から見た平成28年熊本地震：生活再建
林 春男＊（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）

11:43～11:57 防災減災・災害復興に関わる学術連携の重要性
米田雅子＊（日本学術会議会員、防災学術連携体幹事/事務局長）

11:57～12:00 閉会挨拶
小池俊雄＊（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授
／水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM)センター長）

（＊印の講演者等は、科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会委員または防災減災・災害復興に関する学術連携委員会委員）

タイムテーブル：

11/6（日） 受付10:00 開始10:30 終了12:00

【当日申し込み枠の定員】300名

【来場者の当日申し込み】先着順

◀ プログラム一覧ページに戻る